

感性・データ科学・コスメティクス研究会

Special Interest Group on Data Analytics-based Cosmetic and Kansei Science (sig-DACKS)

研究会ホームページは準備中

主査 坂本 隆 (産業技術総合研究所)

e-mail: sigcsf-ml@aist.go.jp

旧名称は「コスメティクスと肌・顔研究会」。新研究会の活動再開を目指し準備中です。

◆研究内容や研究会の構成

本研究会の前身となる「コスメティクスと肌・顔研究会」は、色彩科学の見地から「化粧品・肌・顔」を分析し、その成果を学術研究や、製品開発・サービス提供など産業振興に結びつけることを目標とし、2013年12月21日から2021年3月31日まで、約7年3か月に渡って活動した。企業関係者が研究会へ参加し易いように、研究発表会や研究会総会はできるだけ平日開催とし、会社の経費から支出することが難しい研究会費や参加費は徴収しない方針とした。最盛期には研究会の会員数が230名（うち準会員122名）に達する大所帯となった。しかし2021年1月以降、学会員と準会員を差別化をするために、準会員から研究会会費や参加費（資料代）を徴収するように学術委員会から指示があり、企業関係者が無料で研究会参加する体制の維持が困難になってしまった。また企業側も、著名な国際会議などへの研究発表は許可するが、研究会での研究発表は許可しないケースが増え、企業からの研究発表件数が年々減少する事態が生じた。

上記問題に対処するため、2021年4月1日から研究会名称を「感性・データ科学・コスメティクス研究会」と改称し、以下に示す3つの対策を講じた：

1. 研究会の活動基盤を、企業関係者向け（会費や参加費・資料代は無料）から、大学などに所属する研究者・学生向け（参加費または資料代は有料）へ変更した
2. 出口イメージ（適用対象）を意識した研究会名称から、研究対象となる学術分野や技術分野を明示する研究会名称へ変更した
3. 研究会の対象領域を、従来の「化粧品・肌・顔」に加えて、感性科学（心理学、感性工学、デザイン学を含む）とデータ科学（情報学、統計学、分析学を含む）までカバーするように変更した

上記の変更に伴い、主査は棟方明博（元資生堂）から、坂本隆（産業技術総合研究所）へ交代した。また幹事と顧問から主要メンバーであった企業関係者5名が退任し、運営体制も更新された。

研究領域の拡張部分には、以前の「コスメティクスと肌・顔研究会」時代から扱ってきた研究テーマ、例えばファッション、マルチモーダル知覚や認知、質感、

データの統計的解析、感性工学、心理学などが含まれている。2019年10月29日に当研究会が企画・主催したシンポジウム「感性とデータ科学」（早稲田大学）でも、シンポジウムのテーマとして、感性とデータ科学を標榜した。このように、当研究会が従来から扱ってきた研究テーマを、分かり易く研究会名に明記した上で、新研究会を発足させた（図1）。その後、コロナ禍が災いして、研究会としての本格的な活動再開が遅れているが、執行部の体制が整い、運営の準備が出来しだい、研究会活動を再開する予定である。

(文責：坂本 隆)

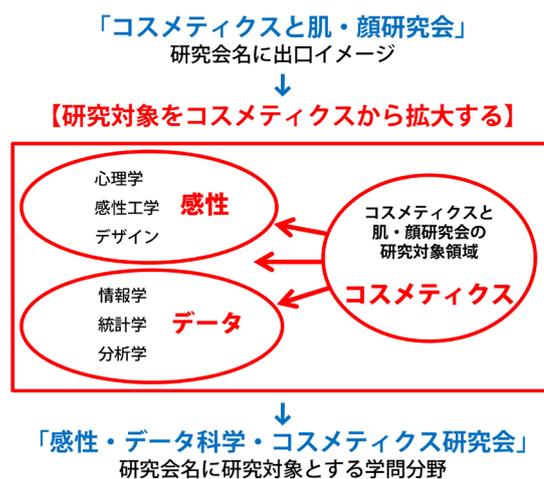


図1. 旧研究会から研究対象領域を拡張した新研究会

◆2021年度の活動報告

令和3年度秋の研究会旬間（研究会大会）にて、色彩科学系5研究会合同研究発表会を共催

◆2022年度の活動計画

前年度と同様に、令和4年度の研究会大会にて、色彩科学系5研究会合同研究発表会を共催予定